

ひと・まち・カラフル

おおたの窓から

地域であざやかに活躍する「ひと」。

十人十色のひとが調和する「まち」。

おおたの窓を開けると、飛び込んでくるのは、いきいき、カラフルな地域の風景です。

view
3

医療法人社団 松和会
池上総合病院



看護師 橋本一紀さん

看護師を志した経緯を教えてください。

子どもの頃、祖父が癌を患い気管切開をされました。幼かった僕は「どうして声が出ないの?」と聞いてしまい、その言葉が祖父を傷つけたのではと深く反省しました。高校生になり進路を考えた際、その経験を思い出し、人に寄り添う仕事をしたいと看護師を目指すことに決めました。当時、看護学校の生徒に男性はわずか1割。女性に囲まれて、正直圧倒されました。一方、人前で話すことが苦手だった僕にとって、女性たちの発言力やリーダーシップはとても心強かったです。

最近では男性看護師が増えていますね。

看護師として13年目を迎

えますが、年々男性看護師が増えていますね。かつては院内に「男性看護師の会」があり、他愛ない話や情報交換をしていました。当時はそのような場がなければ男性看護師と交流する機会がありませんでしたが、今は自然と接する環境になり、僕の所属する集中治療室にも4人の男性看護師がいます。

業務上、気をつけていることはありますか?

学生の頃、看護実習で女性患者に触れることを躊躇してしまい、実習先の病院から「もう、来ないでください」とお叱りを受けたことがあります。その時、大きな挫折を味わい、看護人としての意識に欠けていたと反省しました。以来、女性患者を看護する際、清拭等



の場面で「同性看護師を希望しますか?」とお聞きする

など配慮しつつ、いざ

対応する時は性別を問わずプロとして接しています。

男性看護師は控えめな人も多いのですが、今後は男性も看護師長等の役職に就くことが必要だと感じます。男性の意見や視点も反映しながら、より良い看護現場が実現できると良いですね。



View of the Area 地域とのつながり

池上総合病院では、地元商店街との看護連携、区内学校の職業体験受入等、地域との縁を大切にしており、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら今後も地域連携に取り組むそうです。

